



日本少年野球

第8回オリエンタルフーズ杯争奪三年生交流大会

日時 令和4年11月12(土)13(日)27(日)12月04(日)

〔予備日 12月10日(土)〕

会場 愛鷹球場 富士球場 草薙球場 ほか



2022年度スローガン
変える意識と勇気を持とう!

主催 (公財) 日本少年野球連盟 静岡県支部
後援 (公財) 日本少年野球連盟
協賛 株式会社オリエンタルフーズ

<http://www.orientalfoods.jp/>



ボーイズリーグは一切の暴力、暴言を禁止しています



公益財団法人

日本少年野球連盟
BOYS LEAGUE

野球をしながら
団結・友愛・規律・勇気・忍耐
を身につけよう

(公財) 日本少年野球連盟規約 第3条

本財団は、ボーイズリーグを通じ、硬式野球を愛好する少年に正しい野球のあり方を指導し、野球を通じて心身の練磨とスポーツマンシップを理解させることに努め、規律を重んずる明朗な社会人としての基礎を養成し、もって次代を担う少年の健全育成を図ることを目的とする。

公益財団法人 日本少年野球連盟

会 長 惣 田 敏 和

[本部] 大阪市浪速区日本橋西1丁目3番19号
南海日本橋ビル2F

TEL 大阪 (06) 6649-0061

大会役員

顧問 (公財)日本少年野球連盟 会長 惣田敏和
(公財)日本少年野球連盟 副会長 堀内健
(公財)日本少年野球連盟 松本行弘
中日本ブロック長
相談役 (公財)日本少年野球連盟 理事待遇 杉浦真一

大会名誉会長	宮本昌宜	(株式会社 オリエンタルフーズ代表取締役社長)
大会会長	矢田正行	(静岡県支部支部長)
大会副会長	瀧澤広行	(静岡県支部副支部長・事務局長)
	宮本博之	(静岡県支部総務部 副部長)
大会実行委員長	瀧澤佳孝	(富士ボーイズ 代表)
大会運営委員長	鈴木貴司	(静岡県支部企画運営部 部長)
大会運営副委員長	芹澤輝充	(御殿場ボーイズ 代表)
	山田登	(島田ボーイズ 代表)
	進士佳典	(静岡県支部事務局)
大会運営委員	山本浩士	(浜松ボーイズ 代表)
	榎山浩	(スルガボーイズ 代表)
	芦澤厚史	(静岡葵ボーイズ 代表)
	熊切大介	(静岡府中ボーイズ 代表)
	富樫憲之	(浜松北ボーイズ 代表)
	大木実	(浜松修学舎中学ボーイズ 代表)
	宮本浩和	(下田ボーイズ 代表)
	池田竜二	(菊川ボーイズ 代表)
	森重明	(大井川ボーイズ代表)
	中村好寛	(磐田ボーイズ代表)
大会広報委員長	瀧澤佳孝	(富士ボーイズ代表)
大会審判部顧問	小川潔	(中日本ブロック審判長)
大会審判長	高林俊光	(静岡県支部企画運営部審判員会)
大会副審判長	北島博幸	(静岡県支部企画運営部審判委員)
大会副審判長	村岡稔益	(静岡県支部副審判長)
	杉山晴道	(静岡県支部副審判長)
大会審判部	静岡県支部審判部	審判団
大会会計	鈴木寿一	(富士ボーイズ副代表)
大会事務局長	市川修二	(富士ボーイズ副代表)
大会運営協力	富士ボーイズ父母会	駿東ボーイズ父母会 下田ボーイズ父母会
	スルガボーイズ父母会	御殿場ボーイズ父母会

大会日程

開催日 令和4年11月12日(土) 11月13日(日) 12月04日(日)
予備日 12月10日(土)

球場 愛鷹球場 富士球場 草薙球場 ほか

大会受付 令和4年11月12日(土) AM 8:15

開幕式 開催いたしません

閉会式 決勝終了後、表彰式を行います。

試合開始予定時間 & 球場担当チーム

月	日	曜日	確保球場	開門	第1試合	第2試合	第3試合		担当チーム
11	12	土	富士球場	8:00	9:00	11:30	14:00		下田ボーイズ
11	13	日	富士球場	8:00	9:00	11:30	14:00		御殿場ボーイズ
11	27	日	愛鷹球場	9:00	10:00	12:30			スルガボーイズ
			磐田球場	9:00	10:00	12:30			磐田ボーイズ
12	4	日	愛鷹球場	8:00	準決1 9:00	準決2 11:00	決勝戦 14:00		駿東ボーイズ
12	10	土			予備日				

注) 富士球場は11/12のみサブグラウンドを専有できますのでご利用してください。

注) 試合の経過により試合開始予定時刻より試合開始が早くなる場合がありますので参加チームはご注意ください。

球場責任者

球場名	球場住所	球場責任者
富士球場	〒417-0809 富士市中野671	富士ボーイズ 瀧澤代表
	TEL0545-36-1140	080-4120-3900
愛鷹球場	〒410-0001 沼津市足高202	スルガボーイズ 靱山代表
	055-924-8878	090-8737-8344
磐田球場	〒438-0086 静岡県磐田市見付190	磐田ボーイズ 中村代表
	0538-34-8986	070-2230-6819

順延時 都度支部にて決定後、該当チームの代表へ連絡します。
* 中止決定は、当日6:00に担当チームが判断し、該当チームの代表及び大会運営委員長、事務局長、審判委員長へ連絡してください。

予備球場について

今大会が雨天順延となる場合は、下記予備球場に変更がある場合があります。
球場変更については天候状況により前日17:00までにメールにより配信いたします。

12/10(土) 愛鷹球場

審判費用

各球場にて審判員費用を清算します。
* 各球場責任者は、責任審判より表を受領し、該当額を支払ってください。

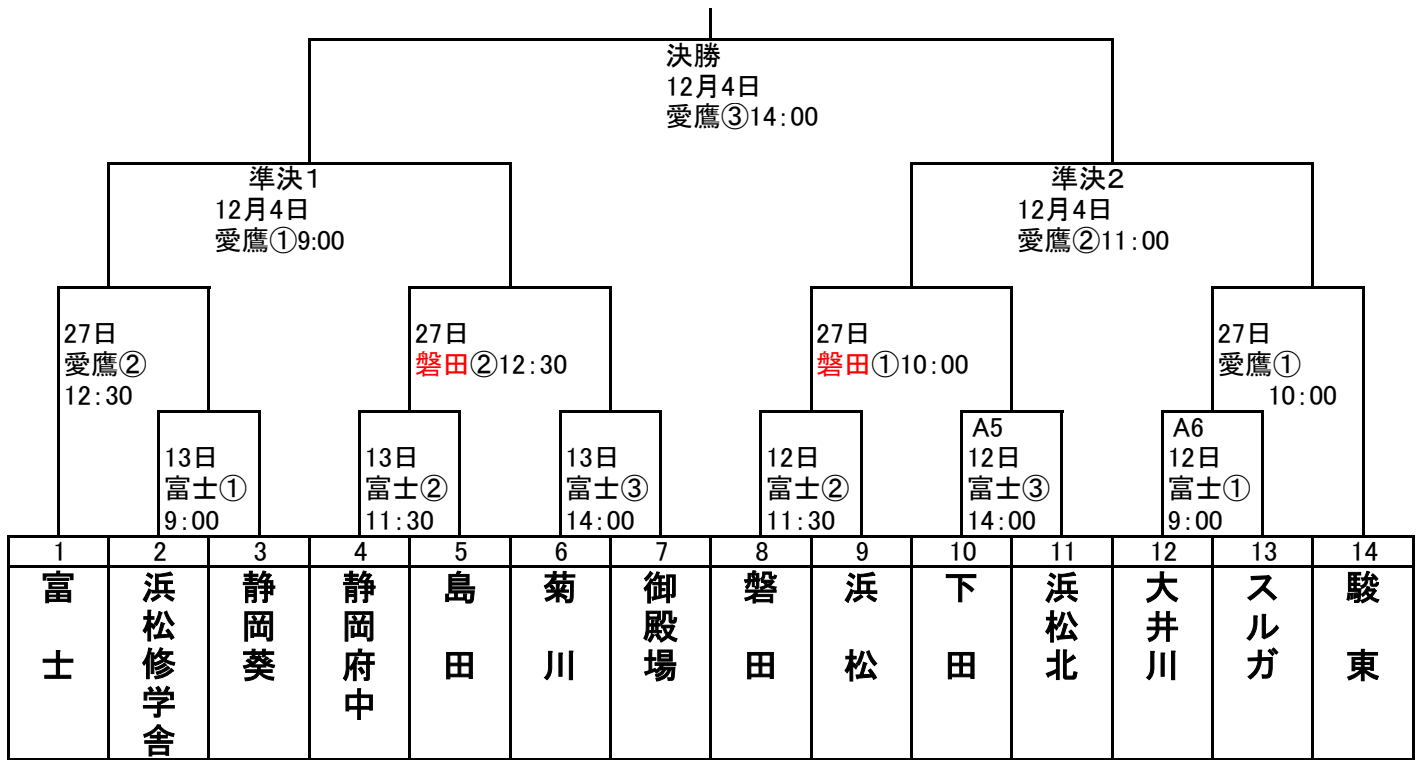
結果報告

担当チームは、試合結果を連盟試合速報システムの運用・支部役員ラインに送信をお願いします。
* 詳細結果用紙は、瀧澤広報部長へ写真メールしてください。

備考

ゴミは必ずお持ち帰りください。
中学野球最後の大会になりますので大いに楽しんで応援をお願いいたします。

2022 オリエンタルフーズ旗静岡県三年生交流大会 一支部長杯



第7回 日本少年野球オリエンタルフーズ杯静岡県3年生交流大会規定

- 1・チームの登録選手は中学生の部は11名以上25名以内（ベンチ入りは20名以内）とする。また、小学生の部は11名以上20名以内とする。
- 2・出場選手はその大会の登録締め切り日現在、連盟へ登録済みの者に限る。
- 3・審査証は当年度発行のものとする。
- 4・オーダー表記入選手20名以内およびチーム責任者、登録された監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることができる。但し各種登録証(チーム責任者、監督、コーチ)および審査証(選手)を携帯していない場合は、いかなる理由でもベンチには入れないが、チーム責任者、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査の上ベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査の上、その時点でベンチ入りできる。なお、チーム責任者は必ずベンチに入らなければならない。チーム責任者が不在の場合は試合できない。
- 5・組み合わせの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。但し、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
- 6・監督(背番号60)、コーチ(背番号50)は選手と同じユニフォームを着用すること。
- 7・試合開始時刻60分前までに試合場に到着し、直ちにオーダー表を5部、打球回数記録副表3部及び大会初戦の時は、直前大会参加報告書を大会本部に提出のうえ所定の審査を受けなければならない。
- 8・オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
- 9・試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して没収試合を宣言することができる。
- 10・試合方法など
 - ・中学生の部
 - (1)各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間(決勝戦は2時間20分)を超えた場合、新しいイニングには入らない(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間に達すれば、その時点で試合を終了する)。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則7.01(4)により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。試合成立前に、上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
 - (2)4回終了時(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、4回終了時)10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - (3)7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長8回(決勝戦は10回)あるいは試合開始から2時間(決勝戦は2時間20分)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。
(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
 - (2)4回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
 - (3)6回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長7回(決勝戦は9回)あるいは試合開始から1時間40分(決勝戦は2時間)を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。
(競技に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照)
- 11・(1)中学生の部投手の投球数は、1日最大80球以内とし、連続2日間で120球以内とする。
小学生の部投手の投球数は、1日最大65球以内とし、連続2日間で105球以内とする。
- (2)打席の途中で制限数に到達した場合は、当該打者の打席が終了するまでは投球を認める。その時制限数を超えた投球数はカウントしない。
- (3)ボークは投球数としない。ノーゲームになった試合も投球数にカウントする。申告敬遠までの当該打者への投球数はカウントする。その他、本大会は中日本ブロックHP掲載の投球数制限ガイドラインに基づき行う。
- (4)日程の変更(地区大会を含む)等で前大会と連続試合になる場合があるので、すべてのチームは「直前大会参加状況報告書」次大会の最初の試合日に、次大会主催者宛に提出しなければならない。

12・(1) 監督またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで1回の指示、伝達を認める。

(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない。)

(2) 守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として登板することはできない。

(3) 内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。

(4) 指示、伝達は審判がタイムを宣言してから「30秒以内」とする。

13・1 イニングで同一の投手に対して指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。

その投手は他の守備位置に着くことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。

ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。

14・審判員の判定に対する抗議は認めない。ただし、ルールの適用についての確認は認める。

15・監督またはコーチが投手に指示などをするときは、マウンドのところで行うこと。(ベンチからは駆け足で)

16・2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。

17・ボール回しをする時は一回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。

18・投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。

19・小学生の部は、攻撃側チームの監督、コーチに限りコーチスボックス内でベースコーチを務めてもよい。この場合必ず両耳付きヘルメットを着用すること。

20・各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具(マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ)2組を備えること。一体型捕手マスクの場合はヘルメット、スロートガードを除く。

21・ユニフォーム、バット、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものに限る。

22・捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。

23・グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。

24・ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。

25・光化学スモッグ発生の場合は、試合及び選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。

26・試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案してシートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

27・守備側のチームの監督は球審に敬遠の意思を伝えると投手が投球することなく対戦打者を四球にすることができる(申告敬遠)。

参考

野球規則 7.01(4)

7.02(a)によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドゲームは、球審が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。

【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で球審がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。

(1) ビジティングチームがその回の表で得点してホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃が終わらないうち、または裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

(2) ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうちまたは表の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点かたはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

《タイブレーク実施細則》

(1) 特別規則

(イ) 中学生の部は延長8回あるいは試合開始から2時間を超えて(いずれか早い方)決勝戦は10回あるいは2時間20分を超えて(いずれか早い方)、決勝戦は9回あるいは2時間00分を超えて(いずれか早い方)両チームの得点が等しい時は以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行うものとする。

(ロ) 打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打者の者とする。

(ハ) この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打者が二塁走者、そして二塁走者の前の打者の者が三塁走者となる。

(ニ) この場合の代打および代走は認められる

(2) チームおよび個人の記録

チームおよび個人の記録は公式記録とするが、如何に掲げる事項に留意すること。

(イ) 投手記録

- ・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
- ・完全試合は認めない。
- ・無安打・無得点試合は認める。

(ロ) 打撃成績

- ・規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。ただし、盗塁、盗塁刺、得点、残塁などは記録する。
- ・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録とする。

【AED所持の確認】

- ・選手審査時にチームはAEDを所持していることを確認すること

2022年3月6日

(公財)日本少年野球連盟

新型コロナウイルス感染防止対策 修正新ガイドライン(2022.3月改訂版)

1.ボーイズリーグの活動における基本注意事項(以下、「基本事項」という。)

(1)活動参加に際して

- ①選手・指導者・保護者等・役員等すべての関係者は、当日の検温を回り、熱・風邪 症状(喉痛、咳、痰、呼吸症状)等の体調に異常がある場合は参加不可
- ②感染拡大期はもとより、活動への参加を強制するのではなく、選手の保護者から同意をとり、チームとして常に参加の意思を確認する

(2)マスク着用の義務

- ①人との距離横1m、前方2mの距離が取れない場合(基本距離)マスク着用
 - ②指導者、審判、保護者等の大人は、上記①に限らず大会、試合、練習含めマスク着用を基本とする
 - ③屋内での活動は原則マスク着用
ただし、選手のみ練習・トレーニングする際にはマスクは不要
 - ④大会・試合中は控え選手はマスク着用
- なお、熱中症予防のため基本距離を置いて会話せずにマスクを外す習慣をつけること
選手はグラウンド内の練習・試合等においては上記①の基本距離、程度の間隔を十分に
とるように配慮すれば、練習中、原則選手はマスク不要とする

(3)昼食等飲食時の注意

飲食する場合は、以下を遵守すること

- ①食事前等に手洗い、手指消毒すること
- ②前2m、横1mの距離をとる
- ③黙食とする
- ④保護者等が配膳する場合は、選手・保護者はマスク着用

(4)手洗い、消毒の慣行

活動の際には、こまめな手洗い・手指消毒と使用後の備品の消毒などの慣行をチームとして義務づけること

(5)備品・消耗品の常備

チームは手指用消毒薬、備品用消毒薬、石鹸、体温計、ペーパータオル等を常備すること

(6)活動参加者の把握(チーム内での感染拡大防止のため)

チーム及び大会等の主催者は、活動における参加者を「新型コロナウイルス感染症対策当日参加名簿」等の提出により把握しておくこと

2.主催大会、地区大会の注意事項

(1)大会開会式、閉会式について

- ①開催会場の了承を得て会場の規則と以下の事項を遵守したうえで開催を認める
- ②マスク着用の上、横1m以上の間隔をあけること
- ③主催者のあいさつ等は距離をとりマスク不要
- ④式はできる限り簡素化し、短時間での式運営に努めること

(2)大会運営について

- ①室内本部はマスク着用、必要最低限の者で運営を行う。換気を行ない、密を避ける。
- ②球場責任者は、各担当者を配置して、チーム代表に観客等を含めて密にならないよう指導し、消毒液・手洗い用、ハンドソープ等を設置すること(本部席、ベンチ、トイレ等)
- ③各チームは試合開始1時間前に大会本部に到着すること
早く到着した場合は、大会本部・球場付近には集合せず、離れた場所で選手、保護者等に密を避け待機
- ④各チームは、チーム責任者が登録役員・選手名簿、オーダー表、「新型コロナ ナウシルス感染症対策当日参加名簿」を本部受付に提出する
- ⑤チーム到着時、帰途時の挨拶はしない
- ⑥試合前審査は、コロナ禍前と同様に前試合の4回終了までに整列して行う。
但し、選手は氏名、生年月日を発声しない。球場運営責任者が指導者・選手などに「基本事項」1-(2)を説明・確認する。
- ⑦球場入場前に大会本部役員はチーム全員に検温、アルコール消毒を実施する
- ⑧試合開始に際し、両軍は前2m以上の距離をとり集合し、脱帽して声を出さずに礼をもって挨拶とする
- ⑨試合中は、チーム責任者は「基本事項」1-(2)をチーム内で徹底させること(観戦保護者等含む)
- ⑩試合終了後は密を避けるために速やかに会場から解散する
- ⑪接待・運営は密を避けて行うこと
1-(3)「屋食等飲食時の注意」を遵守する
飲料等については、配膳する前に手洗い・消毒
感染防止に配慮した使い捨て容器の使用を推奨する。使い捨て以外の食器等は合成洗剤で必ず洗浄すること
- ⑫その他細目については、大会主催者が本ガイドラインの趣旨に基づき大会運営細目を別途定めて大会を運営する

3.遠征・合宿等、入部歓迎会・卒部式・祝勝会等の行事について

(1)「緊急事態宣言」及び「まん延防止等重点措置」時の対応

- ①「緊急事態宣言」発令中は原則、行事、遠征、練習試合等は禁止
- ②「まん延防止等重点措置」は、屋内での行事等は原則禁止

③その他、連盟通達等による指示に従うこと(一定の緩和措置等の発文等)

(2)練習試合・遠征について

- ①練習試合は、特に相手チームとの交流については「基本事項」を遵守すること
- ②都道府県をまたがる遠征については、当該自治体・教育委員会の規制に従うこと
- ③移動の際には、車中の換気を行い、マスク着用、会話を控えること
- ④全国から集まる大会(春季全国大会、選手権大会、鶴岡杯等)については、移動の際、上記③に加えバス・マイクロバス等は定員の半分相当で移動すること(※乗用車は除く)
- ⑤宿泊を伴う遠征は、宿泊先と協議の上、「基本事項」の遵守とソーシャルディスタンスに配慮したシングルユースを基本に食事時等に感染防止策を講じること
特に指導者・保護者等の大人は、酒類を伴う飲食は自粛すること

(2)入部歓迎会・卒部式・祝勝会・新年会等について

- ①当面は屋内での飲食を伴う開催に当たっては、事前に会場設営図や感染防止策を講じた開催要項について書面で支部長を通じて提出しブロック長の承認を得る
- ②会場との協議の上、3密を避け、ソーシャルディスタンスに配慮した設営を基本に、「基本事項」を遵守する
- ③酒類等の飲食を伴う場合は、都道府県・市町村長が定めたルールに従い、会場との協議を行い、「基本事項」を遵守した感染を避ける措置を講じること(会食には仕切り板や約2mの間隔が必要で乾杯時の人との距離に配慮し、酌の交換は禁止する等)
- ④屋外での開催は、「基本事項」を遵守し、特に1-(3)「屋食等飲食時の注意」を遵守すること

4.チーム内で感染者が出た場合の対応・対策について

(1)選手・指導者及び同居家族がPCR 検査を受けた場合

- ①選手・指導者及び同居家族がPCR 陽性検査を受ける場合は必ずチームに報告すること(普段からチーム内で連絡徹底を指導)
 - ②PCR 検査の結果が分かるまでチーム活動への参加は禁止すること
結果判明後速やかにチームに報告すること
 - ③PCR 検査の結果、陽性の場合、感染者となり感染者は、発熱または咽頭痛や頭痛、倦怠感等の症状発出日から10日間(例：3月12日に発症した場合は、12+10=3月22日までの療養(発熱が続く場合は延長)
ただし、無症状者の場合は、陽性判明日ではなく検体採取日から、7日間(例：火曜日に検体採取した場合は次の火曜日まで)の健康観察期間(隔離状態)が必要であり、その間に発病した場合は、発症した日から10日間の療養となる。
 - ④感染者の家族等は、濃厚接触者となるため、当該感染者がホテル・入院等に隔離された日の翌日から7日間の活動を禁止とする
- なお、当該陽性者とその家族等がマスク着用・食事は別等家庭内での感染防止対策がなさ

れない場合は、当該陽性者の健康観察解除日の翌日から7日間の活動を禁止とする。(健康観察期間とは、上記③でいう10日間であり、家庭内で感染防止対策がなされない場合は最長17日間の活動禁止)

⑤同居家族等の濃厚接触者がPCR 検査陰性の場合も上記④と同じとする

⑥報告を受けたチームは、陽性者の発症2日前にその陽性者がチーム活動に参加していた場合は大会開催中であっても活動を直ちに停止すること

濃厚接触者については無症状であった場合はチーム自体の活動を中止する必要はない

(2) 選手・指導者等が陽性となった場合

①選手・指導者等がPCR 陽性となった場合は保健所等が入院や自宅療養等の期間を指示するので、その期間は活動禁止とする

②チーム内で陽性者がでたら当該陽性者が発症2日前から発症後10日以内にチーム活動に参加していた場合は、当該陽性者がチーム活動に参加した最終日から5日間のチームの活動を停止する

なお、明らかに感染防止対策をとって濃厚接触者が出ないとチーム代表が判断できる場合はこの限りではない。ただし、2名以上の感染者が出た場合は、上記と同様の5日間のチーム活動を停止する

③保健所等の調査がチームに入れば、チーム代表及びチームの構成員は保健所等の調査に協力すること

※チームは集団であり個人への連絡またはチーム代表に保健所等から連絡が入る場合がある

(3) 大会期間中の連盟等報告について

①大会期間中に参加しているチーム関係者に陽性者が判明した場合は、当該チームの代表者は、活動停止措置をとり、速やかに大会運営本部及び支部長を通じてブロック長に報告すること

②大会主催者は、本通達の「基本事項」に照らして感染拡大の恐れがあると判断した場合は、直ちに大会を中止・延期にするか、または、当該チームと対戦・接触したチームに対する出場辞退等を検討する。なお、判断に当たって「基本事項」に照らしても判断が困難な場合は、管轄の保健所等と協議したうえで決定する方が望ましい

③報告を受けたブロック長が感染拡大の恐れが高いと判断した場合は上記によらず連盟本部と協議の上、中止・延期等の決定ができることとする。また、連盟主催の大会においては、これを会長が判断する

(4) その他

選手、チームへの差別偏見につながることから陽性者発生情報に関しては、詮索、公表等については避け、プライバシー保護に努めること

以上、本ガイドラインを遵守した上でボイスリーグの活動に努めることとされたい

中学生投手の投球制限ガイドライン 2022年版

レギュラーの部・ジュニアの部 大会

中学生の部レギュラー及び、ジュニアの試合での登板は、以下のとおり制限する。

- ① 1日最大80球とし、連続する2日間で120球以内とする。
連続する2日間で80球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。
また3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を40球以内とし
4連投（連続する4日間）は禁止する。
- ② 大会中は1日80球以内とし、翌日投球を休めば3日目は80球の投球を可とする。
- ③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の
打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球数にカウントしない。
- ④ 連続する2日間で80球を超えた投手、並びに3連投した投手は、登板最終日並びに翌日は捕手
としても出場できない。
- ⑤ ボークは投球数としない。
- ⑥ 雨などのノーゲームになった試合は投球にカウントする。
- ⑦ 2年生以下が投手の場合も上記に準ずるが指導者は十分考慮する事。

1年生 大会

1年生大会の試合での登板は以下の通り制限する。

- ① 1日最大70球とし、連続する2日間で105球以内とする。
連続する2日間で70球を超えた場合は、3日目は投球を禁止する。
また3連投（連続する3日間）する場合は1日の投球数を35球以内とし
4連投（連続する4日間）は禁止する。
- ② 大会中は1日70球投球後、翌日投球を休めば3日目70球の投球を可とする。
- ③ ①～②を基本原則とするが、打者の途中で制限数が来た場合は当該打者の
打席終了までは投球を認める。制限数を超過した球数は投球にカウントしない。
- ④ 連続する2日間で70球を超えた投手、並びに3連投した投手は、
翌日は捕手としても出場できない。
- ⑤ ボークは投球数にしない。
- ⑥ 雨などノーゲームになった試合は投球にカウントする。

共通事項

ダブルヘッターの場合で、2試合に登板した場合は、連続2日間投球したとする。
また1試合のみ投球した場合は1日の投球とする。

○投球制限ガイドラインの補足説明

(1) ③について

打者の途中で制限が来た場合とは、投球日における可能投球数の事である。

中学レギュラーの部を例にすると、初日に於いては 80 球を超えた場合であり、また、初日 68 球投げた連投 2 日目であれば、2 日目の可能投球数 52 球を超えた最後の打者に適用される。

投手に 3 連投を予定していた場合には、初日、2 日目に 40 球を超えると 3 日目は投げることができない。初日、2 日目に於いて打者の途中であっても 40 球投げた時点で交代しなければ、3 連投できない。41 球投げれば 3 連投できない。(打者の途中での投手の交代は制限していない)

(2) ダブルヘッダーについて

ダブルヘッダーの試合は、その日の第 1 試合、第 2 試合どちらかで投げれば翌日(前日)の試合の連続扱いとする。(片方の試合に登板しなくとも休みとはしない)

両方の試合に投げた場合は、1 日の最大投球数 80 球(中学レギュラー)で連続の試合で投げたこととなり、翌日投げる場合、また前日投げていた場合は、3 連投の扱いとなり、1 試合 40 球を超えていると投げられない。

選手名簿

静岡県支部 菊川ボーイズ

代 表	監 督	コ ー チ	M G	主将	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	
				背番号	34	20	22	30	32	36	38	39	41	45	46	49	52	54	56	61	65	66	67	77	78	89			
池田 竜司	鈴木 修平	後藤 英希	今淵 真理	選手名	増田 慈与	山野 仁綺	松兼 漱汰	関 晃誠	藤沼 享哉	古川 春飛	今淵 尚之	木内 陵太	太田 悠惺	山本 暁斗	黒田 麗桜	長塚 吉汰	鈴木 天真	中川 翔太	下嶋 俊輝	飯沼 凌	赤堀 太一	鈴木 煌大	渡辺 夏叶	木下 翔登	堀内 綜馬	植原 正喜			
				学年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年

静岡県支部 御殿場ボーイズ

代 表	監 督	コ ー チ	M G	主将	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
				背番号	11	0	1	2	3	4	5	7	9	17	19	35	51	55	77									
芹沢 輝充	勝又 寛治	高橋 耕輔	勝俣 智史	選手名	塚本 栄輝	田代 權斗	高橋 壮輔	勝俣 壘登	岩田 洋輝	小林 泰之	宮下 航青	土屋 梗雅	勝又 喜陽	小長井 悠	岩田 駿佑	芹沢 拓真	杉山 大輝	長戸 涼雅	長戸 陸翔									
				学年	3年	1年	3年	3年	1年	3年	1年	1年	3年	1年	3年	1年	3年	3年	3年	3年	3年	1年						

静岡県支部 磐田ボーイズ

代 表	監 督	コ ー チ	M G	主将	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
				背番号	3	2	7	8	9	10	11	13	15	21	23	41	51	66										
中村 好寛	鈴木 克昌	中山 泰成	大石 英明	選手名	山本 真永	渥美 綜亮	大石 墨翔	中村 由活	植田 万里	立花 将太	鈴木 陽翔	佐藤 康晴	中山 直央翔	久保 敦	村上 雅治	大橋 一央	木俣 都和	佐藤 大加良										
				学年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年							

静岡県支部 浜松ボーイズ

代 表	監 督	コ ー チ	M G	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25
				背番号	3	1	4	5	6	7	9	11	13	14	15	17	18	22	23	26	33	44	61	65				
山本 浩士	中村 永司	鈴木 広達	畑中 紳吾	選手名	梅谷 好真	池谷 悠弦	浅井 琉晟	鈴木 龍心	宗重 宙希	木村 真翔	岩品 早風	畑尾 太陽	千葉 胡太	細川 劍芯	伴 佳和	田川 竜之	粟島 悠人	宮澤 忠也	山田 勝斗	玉城 豪琉	近藤 真旺	町田 捻樹	兼平 一郎	斎藤 凱哉				
				学年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	3年	

得点記録表

月 日 球場〔 〕回戦 試合時間 /

チーム名	1	2	3	4	5	6	7			計

月 日 球場〔 〕回戦 試合時間 /

チーム名	1	2	3	4	5	6	7			計

月 日 球場〔 〕回戦 試合時間 /

チーム名	1	2	3	4	5	6	7			計

月 日 球場〔 〕回戦 試合時間 /

チーム名	1	2	3	4	5	6	7			計

月 日 球場〔 〕回戦 試合時間 /

チーム名	1	2	3	4	5	6	7			計

月 日 球場〔 〕回戦 試合時間 /

チーム名	1	2	3	4	5	6	7			計

-----メモ-----



<http://www.orientalfoods.jp/>

本社・長崎工場

〒424-0057

静岡県静岡市清水区堀込345-9

TEL.054-395-8876

FAX.054-395-9671

宮加三工場

〒424-0911

静岡県静岡市清水区宮加三340-1

TEL.054-337-1662

FAX.054-337-1663